

## 平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「傾聴」で人と人がつながり支え合う地域づくり
事業主体 (連絡先)	傾聴ボランティアグループ 御代田町「傾聴の会」 (御代田町塩野86-2 電話0267-32-5193 代表 加藤 公文)
事業区分	(2) 保健・医療・福祉の充実に係る事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	453,396円 (うち支援金: 333,000円)

### 事業内容

- 公開講演会の実施。(スキルアップ&養成研修の基調講義を兼ねる)

- ・「話し上手は聴き上手」－「聴き方」を変えて、  
心穏やかで、豊かな人生を－

時期：平成27年9月5日(土)

午前10時～12時(2時間)

場所：複合文化施設まなびの館

エコールみよた「あつもりホール」

講師：特定非営利活動法人ホールファミリーケア協会

理事長 鈴木 絹英 氏

参加人員：約290名

(うち57名はスキルアップ&養成研修受講者)



【公開講演会】

- “地域の縁側「あさひ」”に

「傾聴」関連図書コーナーの設置。

御代田町社会福祉協議会が、一昨年11月に開所した  
出入り自由の施設に、本立て(図書15冊、冊子8冊)  
を設置した。自由に閲覧してもらうことにより、町民の  
傾聴に対する関心を喚起する。



【あさひ談話室】

- 傾聴ボランティアスキルアップ&養成研修の実施。

- ・3日間(1・2日目は連続、

各施設で実習し約2か月後3日目を実施)

時期：平成27年9月5～6日、11月18日

(5時間×3日+実習)

場所：エコールみよた「あつもりホール」、各老人施設

講師：特定非営利活動法人 ホールファミリーケア協会

理事長 鈴木 絹英 氏

参加人員：57名(既活動者33名、新規希望者24名)

(御代田町在住者は、既活動者11名、新規希望者12名)



【研修1日目】

\*モデル的発展性の事業であることの理由

- 「傾聴」はコミュニケーションの全ての場面で、今後増々重要となるスキルである。町が進めている「人と人がつながり支え合う地域づくり」を、効果的に促進していく上で基盤となるものであり、より多くの町民が「傾聴」を実践していくきっかけ作りになった。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- より良い傾聴ボランティア活動を進めていく上で、ボランティアの能力開発は必須である。“学習⇒実践⇒振り返り”の繰り返しによる、能力のスパイラルアップが欠かせない。養成研修既受講者(33名)がスキルアップ研修を受講したことは大変有効であった。
- 傾聴ボランティア活動団体が合同で定期的に集まり、情報交換や学習をしてつながりを深めることは、活動を継続して行く上で大変有効である。その第一弾として、3日間のスキルアップ&養成研修を開催することが出来た。今後は、年1回、1日の合同研修会(講演+情報交換)を持ち回りで、開催する方向で検討中。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①「傾聴」・「傾聴ボランティア」の認知度の向上  
従来は、社会福祉協議会や包括支援センター関係者を中心とした、一部の人達の理解に止まっていた「傾聴」の重要性を、講演会・研修会のプロモート活動・実施を通して、町長をはじめとした幅広い町民に理解してもらえた。

### 【目標・ねらい】

- ①「傾聴」・「傾聴ボランティア」の認知度の向上
- ②個人宅訪問活動の要望増
- ③傾聴ボランティア活動者の増
- ④「広域佐久傾聴ボランティア連絡協議会」の発足

- ②個人宅訪問活動の要望増  
現状3件⇒10件を期待していたが、他人が家に入ることを嫌う地域特性もあり、認知度向上が要望の増にはつながらなかった。
- ③傾聴ボランティア活動者の増  
今回の研修受講者から7名が新規会員として加わり、当初の見込み(現在18名⇒25名程度)通り達成できた。
- ④「広域佐久傾聴ボランティア連絡協議会」の発足  
当初考えていた「広域佐久傾聴ボランティア連絡協議会」とは別の、「広域佐久傾聴ボランティア学習会」を早期に立ち上げるべく、関係者と鋭意協議中である。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①「傾聴」・「傾聴ボランティア」活動の重要性を機会ある毎にアピールし、継続的に実践して行く。
- ②広域佐久の学習会を早期に立ち上げ、会員の能力向上に努める。
- ③個人宅訪問活動の要望増に向け、新たな取り組みをする。民生委員への働きかけや地域サロン活動を通して要望の掘り起しを行う。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

目標・ねらいのうち、重要項目と位置付けていた①と③については当初予想していた以上の具体的な成果を上げることが出来た。②、④については今後の課題として残ってしまった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある